

一誌一句(受贈誌)・2月号他より)

米田透抄出

落伍する弱者もあらむ雁の列

(花苑)

次井 義泰

二泊して慣れたる朝や鯽起し

(海光)

林 誠司

日に乾き星に湿りて掛大根

(鳩の子)

柴田多鶴子

窓を打つ落葉時雨や巴里遠し

(ろんど)

すずき巴里

思ひ出と夢に差はなし日向ぼこ

(槐)

高橋 将夫

たどり来し円空佛に冬日差

(ハンザキ)

橋本 石火

花びらと呼ぶ餅食うてお元日

(山繭)

宮田 正和

朝刊を取るたびに触れ秋明菊

(秀)

染谷 秀雄

冬の星一つは妻と思ひ寝る

(春耕)

暮目 良雨

鈴鳴らし古代神呼ぶ実南天

(山河)

山本 敏倅